

令和3年度 学校経営計画・学校評価

☑4月5日提出 ☑10月15日提出 ☑3月15日提

学校番号	39	高知県立四万十高等学校	課程	全
------	----	-------------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
	目指すべき姿	学校像	①主体的に社会に貢献できる人材育成に努め、地域から信頼され、頼りにされる学校 ②生徒一人ひとりの成長を第一の喜びとして、職員がお互いに支え・高め合える学校 ③社会の変化に対応し、チーム学校としてベクトルを合わせ、教育改革に挑戦しつづける学校
生徒像	豊かでたくましい心を有し、生涯を通じて主体的に学び・挑戦することができる能力・資質を身につけた生徒	目指すべき姿を実現するための取組等	①学校の魅力化と情報発信 ・四万十町と連携した魅力ある教育活動の実践 ・部活動の活性化 ・広報活動の強化 ②学力の向上と進路保障 ・授業改善研修、少人数指導やTT、各種補習 ・ICTの活用や町営塾との連携 ・中高連携教育の推進 ③社会性の育成 ・SST(ソーシャルスキルトレーニング) ・キャリア教育の推進 ・ボランティア活動等地域行事への参画

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
<p>・幅広い学方層を受け入れ、懇切丁寧な指導により、日々の学方向上に取り組みその成果が国立大学進学や公務員就職等に繋がっている。</p> <p>・最低限の学力は必要なので、学力の向上を図ることは賛成。詰め込み過ぎず、学習することに興味をもってもらえるような取組をしてもらえたらよい。</p> <p>・連携中学校との取り組みがみえてこない。ふるさと学習発表会のように発表を一緒に行うだけでなく、同じプロジェクトを行う等、日々の授業でも関わって行うことで四万十高校への進学も視野に入ってくるかもしれない。</p>	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
<p>・生徒が、地域住民との関わりが増えるよう地域に出向く機会が増えること。学校評価アンケートからも先生方自身外部講師その他から学び、生徒に丁寧によく指導されている。効果の高低を評価し常に見直しを図り、働き方を実践していくことで授業の工夫改善にも通じると思う。</p> <p>・学校や四万十町が高校存続のため入学希望者増に向けて尽力されていることは知っており感謝している。生徒から「どういった事が魅力ある高校生活なのか」意見を出し合う場を作ってもらいたい。生徒達が「楽しい」「魅力ある学校」と思えて高校生活を送っていれば周りにも伝わるのではないかと、その発信を生徒自身がすることで伝わりやすくなるのではないかと考えます。</p>	
【チーム学校】	評価 【 B 】
<p>・小中学校との連携は、教職員の方々の意識が学校選択に影響があると思われるので大切だと思う。</p> <p>・小規模の組織ではチームの力にはどうしても限界があり、それゆえ団結した校内組織を核とし、外部関係機関からの協力体制を得る、多層構造の組織を築いておくことでチーム学校の力を大きくすることができると思われる。 ・県外等へPRIは、成果もみられるので継続したらい。</p> <p>・地域の方々は、もっと学校と連携したいという気持ちもあると思います。地域のイベントへの参加は生徒の良い経験・体験にもなると思っております。土曜日はアルバイトなどで参加許可できないというようか。</p>	

【重点項目：生徒に対する取組項目】

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	〔現状〕 ・基礎力診断テスト(1・2年1月実施、3年9月実施) AB層(1・2・3年)(55.5% 56.5% 37.5%) D層(1・2・3年)(27.8% 30.4% 31.3%) 授業外時間1時間以上(1・2・3年)(72.2% 82.6% 87.5%) ・第2回高知県オリジナルアンケート(以下、県アン)問9(1・2・3年)(82.4% 82.6% 90.5%) 〔目標〕AB層の増加、D層の減少 ・第2回GTZ(全年)AB層45%以上、D層30%以下 ・授業外学習時間1時間以上:90%以上 ・県アン(授業理解)問9 肯定:90%以上	・Edtech教材(Classi、ロイノート、すらら)を活用し学力に応じた個別支援を徹底する。 ・町営塾と連携し、自主学習の習慣化と進路目標に応じた指導の徹底する。 ・少人数指導や各種補習による個別支援 ・基礎力向上週間(年間5回)を軸とした学習習慣の確立	B 第1回基礎力診断テスト AB層 34.4% (5人 6人 10人) (1・2・3年)(25.0% 35.3% 41.7%) D層 29.5% (8人 4人 6人) (1・2・3年)(40.0% 23.5% 25.0%) 授業外時間1時間以上 88.5% (1・2・3年)(95.0% 82.4% 87.5%) 問9(1・2・3年)(85.0% 94.2% 87.5%) (県平均)(80.9% 69.0% 76.8%)	・スコラやclassiを活用して、生徒の学習状況を把握し、適切な声掛けをしていく。 ・進路希望や学習到達度に合わせて個別指導を徹底していく。 ・Edtech教材を活用した公開授業を実施する。 ・基礎学力向上週間、定期試験に向けた強化週間の取組をおとして学習習慣を確立する。 ・町営塾と連携して基礎力の定着を図る。	B 第2回基礎力診断テスト AB層(1・2年)(36.9% 41.2%) D層(1・2年)(36.8% 17.6%) 授業外時間1時間以上(1・2年)(78.9% 64.7%) 第2回高知県オリジナルアンケート 問9(1・2・3年)(63.2% 94.2% 91.7%) (県平均)(67.8% 88.3% 80.0%) ・各教科、ポイントを絞った指導ができています。課題チェックや声掛け等、生徒の学習状況に応じた丁寧な個別指導が学校全体で継続できている。	・第1回から第2回に向けてAB層を増加、D層を減少させる ・2年生第2回でD3層を2人以内 〔評価指標〕 ・基礎力診断テスト 第2回GTZ(全年) AB層45%以上 D層30%以下 ・授業外学習時間1時間以上90% ・高知県オリジナルアンケート(授業理解)問9 肯定:90%以上
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	〔現状〕 ・進路実現に向けた社会性と計画性の不足 ・第2回高知県オリジナルアンケート問23(1・2・3年)(58.8% 56.5% 93.8%) 問30(1・2・3年)(76.5% 95.6% 100%) 〔目標〕コミュニケーション能力、自己管理能力を高める。 ・県アン(コミュ)問23 肯定:70%以上 ・県アン(自己管理)問26 肯定:70%以上	・ノート「スコラ」を活用しスケジュール管理、日々を記録し振り返ることができる力の育成する。 ・総合的な探究の時間で行うSSTによる人間関係構築力の育成 ・新入生宿泊研修、LHR、学年デー等の学校行事等を活用し、人間関係づくり活動を推進する。 ・地域行事と連携したボランティア活動への参画をおとして自己有用感の向上に繋げる。	C 問23(1・2・3年)(60.0% 70.6% 70.8%) (県平均)(75.4% 71.4% 77.2%) 問26(1・2・3年)(60.0% 52.9% 55.1%) (県平均)(62.0% 54.8% 63.4%) ・主体性や考え抜く力・コミュニケーション力、自己管理能力に課題を抱える生徒が多い。	・学校行事や校外活動・特別活動を軸に人間関係能力を向上させる。 ・モラルジレンマ授業の実践。 ・地域と連携したボランティア活動への参画を生徒会や部活動を軸に促していく。	B 第2回高知県オリジナルアンケート 問23(1・2・3年)(68.4% 70.5% 91.3%) (県平均)(73.3% 71.7% 81.8%) 問26(1・2・3年)(47.4% 58.9% 75.0%) (県平均)(57.1% 55.2% 71.5%) ・学校行事や外部講師を活用した人間関係づくり活動の時間が十分確保されていない。 ・主体性や考え抜く力・コミュニケーション力、自己管理能力に課題を抱える生徒が多い。	・コミュニケーション能力、自己管理能力を高める。 ・生徒の主体的な活動や発表機会を増やし、教科横断的な取組、四万十町との連携を継続する。 〔評価指標〕 ・高知県オリジナルアンケート(コミュ)問23 肯定:70%以上(自己管理)問26 肯定:70%以上

【チーム学校：教職員が取り組む項目】

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○互いに学び・高め合う意識の醸成 ○主体的・対話的で深い学びへの授業改善	〔現状〕主体性を引き出す授業改善が課題 第2回県アン(授業改善) 問10(1・2・3年)(100% 91.3% 100%) 問11(1・2・3年)(88.3% 100% 95.1%) 問12(1・2・3年)(94.1% 82.6% 93.8%) 〔目標〕ICT機器を効果的に活用し理解深化に繋がる授業改善 ・県アン(授業改善)問10~12 肯定:90%以上	・Edtech教材(Classi、ロイノート、すらら)の効果的な活用による授業改善 ・ICT機器を利用した公開授業及び教科会の実施 ・学校支援チームとの連携 ・中高連携による他校種の授業方法を参考とした授業改善	B 問10(1・2・3年)(95.0% 100% 95.9%) (県平均)(91.1% 78.1% 81.3%) 問11(1・2・3年)(80.0% 94.1% 100%) (県平均)(84.7% 76.1% 79.9%) 問12(1・2・3年)(80.0% 82.3% 79.2%) (県平均)(82.2% 70.2% 73.3%) ・学習のめあてや目標が示され、主体的な学びに繋がっている。	・Edtech教材を活用した公開授業を実施する。 ・授業時間の配分を工夫して振り返りの時間を確保し、学習の定着を図る。 ・学習支援チームとの連携 ・中高連携の教科会を実施し基礎力定着を図る。	B 第2回高知県オリジナルアンケート 問10(1・2・3年)(89.5% 100% 95.9%) (県平均)(81.0% 88.3% 77.7%) 問11(1・2・3年)(68.4% 88.2% 91.6%) (県平均)(78.5% 73.7% 77.6%) 問12(1・2・3年)(79.0% 82.4% 79.2%) (県平均)(71.7% 67.2% 71.1%) ・学習のめあてや目標が示され、主体的な学びにつながる授業改善ができています。ICT機器を活用した授業づくりができています。活用にとどまらず理解深化に繋がる活用方法を研究していく必要がある。	・ICT機器を効果的に活用した授業改善を行う。 ・観点別評価にそった授業改善に取り組む。 〔評価指標〕 ・高知県オリジナルアンケート(授業改善)問10・11・12 肯定:90%以上
生徒理解 生徒支援	○予防的・発達促進的な生徒指導・支援の充実 ○生徒の学校適応の向上、いじめ防止	〔現状〕SC,SSW、関係機関と連携した支援 第2回県アン(充実安心) 問7(1・2・3年)(89.3% 95.6% 93.8%) 問8(1・2・3年)(82.4% 100% 100%) 〔目標〕SC,SSWや関係機関と連携した支援 ・不登校、問題行動等:0 ・第2回県アン(充実安心)問7・8 肯定:90%以上	・SC,生徒情報共有と個別対応の徹底 ・毎月の生徒支援委員会及びSST校内研修で支援方法の徹底と指導方法の協議 ・アセス(各学期)、学校生活アンケート(6・11月)による生徒実態把握と情報共有 ・各学期の面談週間その他の生徒・保護者との面談による保護者との連携	B 問7(1・2・3年)(95.0% 94.1% 91.7%) (県平均)(89.0% 84.9% 89.5%) 問8(1・2・3年)(95.0% 88.3% 91.7%) (県平均)(88.1% 83.7% 91.4%) ・学年会や生徒支援委員会での実態の把握ができ、教員間で情報共有ができています。 ・外部講師による生徒理解の深化につながる研修会が開催できた(人権教育研修会)。	・学年会や生徒支援委員会の情報を全教員で共有し、一人ひとりに寄り添った支援を継続していく。また、SC,SSW、関係機関と連携した生徒支援に繋げていく。 ・生徒の学習環境や生活環境に配慮した支援を心掛けていく。必要に応じて合理的配慮を取り入れていく。	B 不登校生徒の数 0人 第2回高知県オリジナルアンケート 問7(1・2・3年)(89.4% 82.4% 91.7%) (県平均)(86.4% 82.2% 89.2%) 問8(1・2・3年)(84.2% 76.5% 95.8%) (県平均)(87.5% 85.0% 91.6%) ・学年会や生徒支援委員会での実態の把握ができ、SC,SSWと連携した教員の情報共有ができています。 ・高校入学後の新たな不登校生徒はないが、学校生活のストレスを抱えている生徒が増加傾向にあるので継続した見守り支援が必要である。	・SC,SSWや関係機関と連携した支援を継続する。 〔評価指標〕 ・不登校、問題行動等:0 ・高知県オリジナルアンケート(充実安心)問7・8 肯定:90%以上
学校の振興	○入学者増に向けた学校の魅力化 ○地域内外への情報発信方法の強化	〔現状〕・連携型特別選抜出願の割合 38% ・地域みらい留学による学校説明会・施設見学会に22名参加し11名の入寮申し込み、体験入学に地域からの参加者4名(県外1名) 〔目標〕魅力化コーディネーターや関係機関と連携した活動 ・連携中の志願割合50%以上 ・連携中学校以外からの体験入学、施設見学会参加者20名以上	・四万十町と連携した学校づくりの推進 ・地域みらい留学による学校説明とSNS発信 ・全国大会出場を目指したソフトボール部や地域の活性化に貢献できる中高連携音楽部の取り組み強化と発信 ・自然環境教育やドローンの活用を含む学校の特色化 ・四万十自然探究ネットワークを活用した寮生活の充実	B オンライン学校説明会参加者9組 8月県外生徒学校見学会参加者6組 県外からの10月体験入学参加者4組 ・魅力化推進会議を開催(9月未現在19回開催)し、生徒募集、魅力発信について情報収集及び対策を協議。協議内容は、学年会や学年会で情報を提供し本校の魅力化について共有している。 ・外部講師による部活動支援(ソフトボール部、音楽部、ドローン部)。	・特色ある部活動の情報を学校新聞や四万十町と連携して積極的に発信していく。 ・連携中学校以外からの受け入れの整備に欠かせない寮運営について、継続して検討していく。 ・ホームページやインスタグラムを活用して魅力ある取組を発信する。	A ・連携中の志願割合 61.5% ・連携中学校以外からの体験入学、施設見学会参加者21組(中3 17組 中2 4組) オンライン学校説明会 48組 ・学校魅力化コーディネーターや四万十高校振興対策室と連携した学校説明会を実施し、一定数の志願者を確保できた。連携中学校からの志願割合は目標を達成できた。教科・部活動等で一層連携を図る必要がある。	・学校魅力化コーディネーターや関係機関と連携した活動を継続する。 ・中高連携事業において各教科の連携を強化する。 〔評価指標〕 ・連携中学校卒業生50%以上の本校入学・連携中学校以外からの学校見学会・体験入学参加者15名
働き方改革	○勤務内容と勤務時間の確認 ○チーム学校による協働意識と業務の改善	〔現状〕 ・時間外勤務月45時間以上の教員数平均1.6人 ・学校評価アンケート(否定的回答)個々の業務量 10.5% 勤務時間管理 0.0%(「どちらともいえない」がそれぞれ42.1%、26.3%) 〔目標〕チーム学校による協働意識を高めていく。 ・時間外勤務月45時間以上の教員数 0 ・学校評価アンケート「個々の業務量」と「勤務時間管理」の否定的回答25%以下	・協働性や同僚性の推進と個々の削減 ・学校閉校日・定時退校日の設定 ・職員会議資料等のペーパーレス化 ・ICT機器を活用した教材の共有、アンケートの実施・集計	C 時間外勤務月45時間以上の教員数 4月 8人 5月 2人 6月 3人 7月 0人 8月 0人 9月 0人 ・部活動や進路指導・生徒支援に多くの時間が費やされている。 ・職員会議をペーパーレスで実施。 ・夏季休業中に閉校日を4日実施	・指導・支援に多くの時間を要する生徒が多く、学年会や生徒支援会で状況を確認しながら個人で抱え込まないようにしていく。 ・退校時間の遵守	B 時間外勤務月45時間以上の教員数 10月 1人 11月 2人 12月 0人 1月 0人 2月 0人 ・学校評価アンケート「個々の業務量」否定的回答20.0% 「勤務時間管理」否定的回答 5.0% ・生徒の学習状況に応じた丁寧な個別指導や個々の生徒に寄り添った支援を、学年会を軸に取組が継続できており、時間外勤務の削減、教職員の負担感の減少に繋がっている。	・チーム学校による協働意識を高めていく。 〔評価指標〕 ・時間外勤務月45時間以上の教員数 0 ・学校評価アンケート「個々の業務量」と「勤務時間管理」の否定的回答25%以下